

美濃焼を「デザインの解剖」の視点で読み解いた全1400ページに及ぶ書籍 『The Book of MINO 美濃焼の解剖』 発売



1400年の歴史を持つ美濃焼は、原料となる良質な「土」が豊富に採取できることが発展の礎となり、釉薬や技術の開発が進み、食器を始め、タイル、アート作品等が誕生し、様々なシーンで利用され、生活に溶け込んできました。

書籍『The Book of MINO 美濃焼の解剖』は、セラミックバレー協議会とグラフィックデザイナーの佐藤卓氏との出会いから生まれた、14年以上に及ぶプロジェクトの一つです。セラミックバレー協議会の活動は、美濃焼の価値を再発見し、地域の活性化を目指す取り組みとして始まりました。そして美濃焼の文化、歴史、技術、経済、地域特色を再整理したアーカイブ書籍『The Book of MINO 美濃焼の解剖』の制作へと発展し、この度、完成を迎えました。

美濃焼を「デザインの解剖」の視点で読み解いた全1400ページに及ぶ書籍となります。ぜひご覧ください。

■『The Book of MINO 美濃焼の解剖』 2026年9月26日(土) 先行発売開始！

11月の発刊に先駆けて、公式オンラインショップ、代官山 蔦屋書店など一部店舗で先行発売をいたします。

特設サイト：<https://ceramicvalley.jp/lp/the-book-of-mino>

■代官山 蔦屋書店 POP UP 開催 2026年11月13日(金)～11月19日(木)

場所：代官山 蔦屋書店 3号館1階 書籍や美濃焼の器の販売を行います。

■書籍出版記念トークイベント開催 2026年11月15日(土) 11:00

場所：代官山 蔦屋書店 3号館2階 SHARE LOUNGE (イベントスペース)

登壇者：佐藤卓 (グラフィックデザイナー)、橋本麻里 (学芸プロデューサー)

※詳細は2ページをご覧ください

書籍概要

名称：The Book of MINO 美濃焼の解剖

仕様：A4変型上製本、函入 (210x270mm)、1400ページ

定価：29,700円 (税込)

発刊：2026年11月3日

発行部数：2,000部

企画：佐藤卓

監修：橋本麻里、立花昭

デザイン：TSDO (鈴木文女、長谷川桃、岸本絢乃、足立優、中西智子)

編集：TSDO 意と匠研究所

執筆：橋本麻里、下川一哉、杉江あこ、外館和子、阪口公子、立花昭

撮影：西部裕介、五十嵐拓也 (amana)

発行：一般社団法人 セラミックバレー協議会

印刷・製本：山田写真製版所



書籍出版記念トークイベント開催

『The Book of MINO 美濃焼の解剖』を企画したグラフィックデザイナーの佐藤卓氏と、監修を務めた学芸プロデューサーの橋本麻里氏によるトークイベントを開催いたします。この前代未聞の一冊が生まれた背景や、美濃焼の魅力についてお話いただきます。

■日時：11月15日（日）開場 10:45・開演11:00 ※オンライン配信も実施予定

■場所：代官山 蔦屋書店 3号館2階 SHARE LOUNGE Session（イベントスペース）

■登壇者：佐藤卓（グラフィックデザイナー）、橋本麻里（学芸プロデューサー）

■予約方法：10月10日（土）より、代官山 蔦屋書店のホームページよりチケットを購入いただけます

<https://store.tsite.jp/daikanyama/event/>



佐藤 卓 Taku Satoh

1979年東京藝術大学デザイン科卒業、1981年同大学院修了。株式会社電通を経て、1984年佐藤卓デザイン事務所設立。「ロッテ キシリトールガム」や「明治おいしい牛乳」などのパッケージデザイン、「金沢21世紀美術館」、「国立科学博物館」、「全国高校野球選手権大会」等のシンボルマークを手掛ける。

また、NHK Eテレ「にほんごであそぼ」アートディレクター、「デザインあ」の総合指導、21_21 DESIGN SIGHTディレクターおよび館長、京都芸術大学学長を務めるなど多岐にわたって活動。著書に「デザインの解剖」シリーズ（美術出版社）、「クジラは潮を吹いていた」（DNPアートコミュニケーションズ）、「塑する思考」（新潮社）など。



橋本 麻里 Mari Hashimoto

学芸プロデューサー。刀剣文化研究保全機構 業務執行理事。小田原文化財団（江之浦測候所）美術館開館準備室室長。金沢工業大学客員教授。ゲーム「刀剣乱舞ONLINE」日本文化監修。元永青文庫副館長（2016～2023年）。新聞、雑誌等への寄稿のほか、美術番組での解説、キュレーション、コンサルティングなど活動は多岐にわたる。近著に『かざる日本』（岩波書店）、共著に『図書館を建てる、図書館で暮らす 本のための家づくり』（新潮社）、『世界を変えた書物』（小学館）など。キュレーションに特別展「北斎づくし」（2021年、東京ミッドタウン・ホール）、「ラーメンどんぶり展」（2025年、21_21 DESIGN SIGHT）ほか。

セラミックバレー協議会とは？



セラミックバレー

世界は美濃に憧れる。

<https://ceramicvalley.jp/>

セラミックバレー協議会は、美濃焼産地の統一的な世界観を作り、訴求力を高め、地域の活性化を図ることを目指し、2021年4月に発足しました。

岐阜県 多治見市、土岐市、瑞浪市、可児市の4市地域を中心とした美濃焼産地を「セラミックバレー」と名付け、物販・観光の両面から美濃焼産地をブランディングすることを目的に活動を続けています。

これまでに、グラフィックデザイナーの佐藤卓氏の企画・指導の下、ロゴマークやプロモーション映像などの制作・普及活動を実施。その後、ロサンゼルス・サンパウロのジャパン・ハウスや21_21 DESIGN SIGHTでの「ラーメンどんぶり展」、当地でのクラフトフェア「セラミックバレー・クラフト・キャンプ」やアートプロジェクト「ART in MINO 土から生える」を開催してきました。

「From MINO」「To MINO」を合言葉に、日本の中でも独自性の高い美濃焼産地の発展が世界から遅れを取ることなく続くよう、同協議会は既存の組織や地区間の枠を越え、産地振興の新しい潮流となるべく各種事業に尽力しています。

『The Book of MINO 美濃焼の解剖』とは？

1400ページから成る本書は、辞書、百科事典、記録集、写真集などのジャンルを超えた特別な一冊です。美濃という地域の、そしてやきものという工芸、産業の歴史の厚さ、重さが凝縮されています。

目指したのは、産業、工芸、アートという領域を超える、「創造のための資源」とすることです。書籍を作ることがゴールではなく、美濃で、あるいはそれ以外の場所で、さまざまな立場の人がこの本をアーカイブとして利用し、その経験自身が次の思考、研究、実践を生むエンジンになる。そんな本になればという壮大な目論見が、本書の編集方針です。

本書はラーメン丼を解剖するところから始まります。次いで日本中の食卓を支える日用食器、建材のタイル、人間国宝の手による茶陶、現代美術作品まで、〈美濃焼〉と規定されるものの曼荼羅にも似た広がりを変えて俯瞰した後、代表的な器種やタイルを「解剖」しながら、じっくり紹介していきます。

前半では美濃焼の「もの」としての側面を紹介し、後半ではその背景となっている、日本のやきものの歴史とほぼ同義ともいえる、美濃のやきものの過去や産業の広がり、そして「美濃」と一括りにしてしまっては見えない地域固有の特徴、さらにより新しい文脈を持つ「セラミックアート」の諸相を、丁寧にひもといていきます。

最後に、美濃の全ての始まりにして終着点でもある「土」がいかなる存在であるのか、美濃のやきものの未来にどのような可能性があるのかを論じて、1400ページに及ぶ大著はようやく閉じられます。

同書「はじめに」より抜粋し加筆修正

- 第一章 美濃焼のラーメン丼
- 第二章 美濃焼の器
- 第三章 美濃焼のタイル
- 第四章 道具
- 第五章 美濃のセラミックアート
- 第六章 美濃焼の歴史
- 第七章 美濃焼の産地 ～セラミックバレー～
- 第八章 美濃焼の土
- 第九章 リサイクル
- 第十章 働く手の風景
- 第十一章 美濃焼の未来 ～鼎談～





【CONTACT】書店でのお取り扱い等について

(一社) セラミックバレー協議会 〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-55 <https://ceramicvalley.jp/>

担当：加藤 info@ceramicvalley.jp Tel：090-8870-8001

プレスリリース発信・コミュニケーションサポート

デイリープレス竹形 naotkaegata@dailypress.org Tel: 090-1531-6268